



あだっこ

五條市立阿太小学校だより
平成28年4月25日
第2号

あかるく元気な子 だれにも親切な子 しっかり考える子 ことばを大切にする子



『あかるく元気な子』の基は…



「今日、学校に行ったらこんなことをするぞ」という一日のめあてが、子どもをやる気にします。「一緒にがんばろう」というなかまの声、子どもに力を与えます。そして、「今日も一日よく頑張ったな」という満足感が、子どもを笑顔にさせます。

本校では、こうした日々の繰り返しが『あかるく元気な子』を育てる基になると考え、子どもたちの学習意欲や活動意欲をさらに高めることができるよう、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間など日々の教育活動に全力で取り組みます。



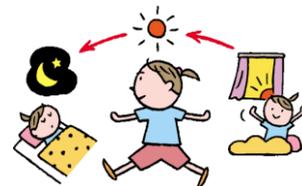
しかし、子どもたちは一日の約3分の2を家庭や地域で過ごしています。実は、この家庭や地域での過ごし方が、『あかるく元気な子』を育てる上で重要な役割を担っているのです。



まずは…。家庭や地域の中でのあいさつです。朝起きたときや登校時の「おはよう」や「行ってらっしゃい」。お家の人や地域の人朝の明るい一声が、子どもに元気を与えます。また、下校中や帰ってきた時の笑顔での「お帰り」、そして寝る前のやさしい「おやすみ」など。そうした一言が、子どもに「今日も良い日だったな」という満足感、「よし、また明日頑張るぞ」という力を与えます。ぜひ、『明るくやさしく温かいあいさつ』で、毎日子どもに**元気の水**を与えてあげてください。

二つ目は…。子どもの話を聴くことです。子どもは、学校で様々な体験をして、今日あった出来事をいっぱいいろいろな人に話したいと思いつつ下校します。そんな自分の話を聴いてくれる人がいると思うだけで、子どもは笑顔になるのです。『仕事をしながら、食事をしながら、お風呂に入りながら』で結構です。子どもが語ることに耳を傾けてあげてください。

三つ目は…。基本的な生活習慣の定着です。つい最近行った全国学力・学習状況調査でも、『早寝・早起き・朝ご飯』にやや課題があるという本校の結果が出ています。寝覚めが悪い状態で登校すると朝から大あくび、食事をしないで登校すると体に力が入らない、それに加えて、うんちをきちんとしていないと急におなかが痛くなる…。いずれも、『あかるく元気な子』にはほど遠い状態になります。『ぐっすり睡眠・しっかり食事（特に朝食）・すっきり排便』が元気の基だということを再確認し、実践をお願いします。



学校が果たす役割と家庭や地域が果たす役割、それぞれがそれぞれの役割を理解しながら、家庭や地域と学校が手を携えて協働することこそ、『あかるく元気な子』を育てる基となるのではないのでしょうか。

保護者や地域の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。